

自治体による自然保育の推進事例

「ぎふ木育」における自然保育へのアプローチ

岐阜県（林政部恵みの森づくり推進課）

自然保育推進の背景

地域の環境や状況

岐阜県は、御嶽山、乗鞍岳など標高 3000m を超える山々が連なる飛騨地域、木曾川、長良川、揖斐川の木曾三川が流れる美濃地域があり、県土面積の 82% を森林が占める全国 2 位の森林県である。起伏に富む地形や標高差から生み出される多様な気候の影響を受け、自然が豊かで様々な種類の動植物が生息している。

取組の経緯・背景・沿革等

岐阜県では、平成 18 年 3 月に「岐阜県森林づくり基本条例」を制定し、県民や次代を担う子どもたちを対象とした「森林環境教育・木育」を進めてきた。平成 24 年 3 月には「ぎふ木育 30 年ビジョン」を策定し、森林に代表される岐阜県の豊かな自然や、それに影響を受けて育まれてきた伝統と文化に誇りをもち、「清流の国ぎふ」を担う子どもたちの育成に取り組んでいる。

その中で幼児期から森林空間を利用した自然保育活動については、「ぎふ木育」の一環として支援を行っている。

自然保育推進の具体的取組

「ぎふ木育 30 年ビジョン」では、「ぎふ木育」を「県の豊かな自然を背景とした森と木からの学び」と定義づけしており、「森と木」その両方から自然保育にアプローチしていること、そして「30 年」という長期的かつ継続的な施策であることが、このビジョンの重要なポイントである。自然保育というと森や公園といった野外での活動を主体としているが、本県では、「木のおもちゃは掌の中の小さな森」という言葉にもあるように、木のおもちゃを通じて、身近な木に触れ、森を感じ、自然とつながることも自然保育の一つと考えている。

平成 24 年度には、清流の国ぎふ森林・環境税を導入し、保育園や幼稚園、小学校等に指導者を派遣して、身近な自然や木にふれあう体験を行う「ぎふ木育教室」や「緑と水の子ども会議」を実施しており、平成 30 年度までに 781 施設、約 4 万 5 千人が森や木にふれあう体験活動に参加している。平成 27 年度からは、県立森林文化アカデミーと連携し、森のようちえん活動の実践者を対象としたリスクマネジメント研修や交流会を開催する



など、幼児期の森林環境教育を推進するための活動支援を行っている。令和元年度には、森などの自然を活用した子育て・保育・幼児教育に取り組む活動のうち、他の模範となる優れた活動を行う団体・個人を表彰し、その取り組みの推進と県民への認知度の向上を図ることを目的とした「ぎふ 森のようちえんアワード」を創設した。

自然保育の紹介

県内の保育所、幼稚園、子育て支援センターなどに、「ぎふ木育」の専門家である「ぎふ木育推進員」を派遣する「ぎふ木育教室」では、以下の5つのプログラムから選択して実施しており、基本プログラムにかかる講師料及び講師の旅費は県が負担し、材料費については施設の負担としている。ただし、材料費のうち木育教材の購入費について、「ぎふの木育教材導入支援事業」を活用することで、県から補助を受けられる制度がある。

- ① 野遊びウォーク：施設の周辺の森や自然を歩きながら、身近な自然のおもしろさや自然物を使った遊びを学ぶことで、森へ入るきっかけをつくる。
- ② ままごとあそび：木のままごと皿を紙やすりで磨いた後、野外で集めた自然素材を使ってままごと遊びを行い、自由な発想で自然物を捉えるとともに、食事の作法を知るきっかけをつくる。
- ③ 木のおもちゃづくり：ぎふの身近な山の木を紙やすりで磨き、木のおもちゃ（積み木、チョロチョウ等）を作ることで、木の匂い・手触りを感じ、作った後は、みんなで遊んで楽しむ。
- ④ 木の楽器づくり：ぎふの身近な山の木を紙やすりで磨くなど木に親しみながら、楽器（木の笛、カスタネット、祭りの鈴等）をつくる。作った後は、みんなで演奏して楽しむ。
- ⑤ 木のアクセサリーづくり：ぎふの身近な山の木を紙やすりで削り、木のアクセサリー（ペンダント等）を作り、木の匂い・手触りを感じ、それぞれが思いを込めたものづくりを体験する。

これらのプログラムをいつでも体験でき、誰もが木に触れ、親しみ、木のおもちゃ遊びを通じて森を感じる「ぎふ木育」の拠点施設「ぎふ木遊館」が令和2年4月にオープン予定である。

さらに、県立森林文化アカデミーでは、平成26年度にドイツ・ロッテンブルク大学と連携の覚書を締結し、毎年ドイツから講師を招き、森の教育ワークショップや森林環境教育セミナーなどを実施している。また、ドイツの森林教育施設「ハウス・デス・バルデス」をモデルとした、森と人をつなぐための日本初の森林教育の総合拠点施設「森林総合教育センター：morinos（もりのす）」が令和2年5月にオープン予定である。

取組の効果

ぎふ木育教室を経験することで、砂場遊びではデコレーションされたケーキを作ったり、葉っぱが浮かんでいるお味噌汁を作ったりと、自然物を使って楽しむ様子が見られるなど、豊かな想像力が育まれている。

自然の中で遊ぶ子どもたちは、やるべきことに追われず、のびのび活動している。ルールはあるものの「枠」がない遊びは、子どもたち自身が自分の経験を土台として遊びにつなげたり、広げたり、考え、変化させていくことができるようになったなど実施園から報告があった。